コミュニティ活動助成

NPO法人 桂公園こどもランド

新潟県十日町市

民間交通公園を引き継いだNPOによる多様な公園リノベーション活動

NPO法人が公園の運営を引き継ぎ、週末にはボランティアスタッフによりゴーカートも運行する

団体設立経緯

10年近く前のある日のこと、「ゴーカートは、もう乗れないんですか?」と家族連れに話しかけられ、家族のお母さんが子供のころ、この公園でゴーカートに乗って楽しい時を過ごした思い出を話してくれました。しかし造成から半世紀が過ぎた公園は、当時の面影を感じられないほど荒廃していました。

「このままでは、長年地域の子育てを支えてきた公園がなくなってしまう」。何とか自分たちの手で再生できないものかと考え、NPO法人を設立しました。

活動概要と活動対象範囲

私たちの住む地域は、冬になると積雪3mにもなる豪雪の中山間地です。公園遊具の冬期管理が難しく、家族連れが遊ぶには遊具以外の様々な仕掛けが必要でした。

そこで交通公園だった敷地を活かし、週末にはゴーカートなど各種乗り物の運行、夏季の水遊び広場など様々なイベントを行っています。公園内の桜や公園周囲の樹木の手入れ、「春の菜の花畑」に「夏のヒマワリ畑」など景観整備は、地元農家さんや地域住民、時にはSNSで協力者を募って実施しています。

活動に至った理由や背景

9年前、施設の老朽化と管理人の高齢化で公園の管理団体が解散しました。「少子化だから公園がなくなっても仕方ない」と地域に噂が広がる中、子育て世代の人たちにアンケート調査を実施しました。すると「公園をなくさないでほしい!」、「ゴーカートを復活させてほしい!」など多くの声が集まりました。その声を受け、「少子化だからこそ子育て環境の整備が必要なのではないか!」と、地元有志が中心となり活動を始めました。

園内全域に花を植え、管理の手間を惜しまない　（左）「ひまわり畑」はシーズンには絶好のフォトスポットに　（右）花に見守られながら走るバッテリーカー

活動内容と成果

【景観整備】

残雪があるうちに樹木を間伐しました。そうする事で雪がクッションとなり、倒した木が地面を傷つけません。間伐材は薪ストーブやキャンプでの活用などの需要があり、希望者をSNSで募集したところ多くの方から引き合いがありました。処分費もかからず、引き取りに来られた方たちとのコミュニケーションの中で、ボランティアの確保にもつながりました。

風が吹く度に枝葉を散らしていた樹木が整理されたことで管理の手間も省け、暗がりにも陽が差し込むようになりました。

【植栽管理】

老朽化した公園のロケーションをカバーして魅力を向上するべく、園内全域に花を植えました。知識豊富な園芸農家さん他、沢山の人の手を借り植栽管理をしています。

花の植え替え時、それまで植えられていたまだ元気な株の里親をSNSで募集すると、沢山の方が引き取りに来てくれました。鉢植えにする方やドライフラワーにする方など、活用は様々。処分の手間が省け、ここでもまた新たなコミュニケーションが生まれました。「ひまわり畑」の開花時には来場者も多く、家族連れの撮影スポットにもなりました。

公園の花壇に子供やボールが飛び込むのは当たり前の事。モグラや野ネズミの被害で花が枯れることも日常茶飯事です。花が枯れてポッカリ空いた場所に「動物のオブジェ」を置くと、とても景観にマッチしました。それ以来、公園の各所に配置した動物たちは子供たちに大人気で、今はなくてはならない存在となりました。

【土日祝は全てイベントの日】

活動当初は年に1回だけ、子育て家族向けのイベントを開催していました。しかし活動の本来の目的は、「いつ遊びに来ても楽しめる公園づくり」です。そこで3年前からは、土日祝日は全てイベントの日と決めました。学生や社会人、シニア世代のボランティアが集まり、ゴーカートほか各種乗り物を運行します。くじ引きにバルーンのプレゼントなど、子供たちの笑顔を引き出す仕掛けも盛り沢山です。

2020年に閉園した東京都内の「としまえん」から譲り受けたバッテリーカー 4台をオーバーホールし、公園の新たな乗り物としました。SNSで発信すると、公園オープンのゴールデンウィークには乗り物の順番待ちで長蛇の列となり、それ以後も沢山の子育て家族が遊びに来てくれる様になりました。

【子育て家族のサポート】

「子どもをゴーカートに乗せたいんですが、運転する自信がなくて…」、「お兄ちゃんをゴーカートに乗せてあげたいんですが、ベビーカーに赤ちゃんがいるので…」。高校生のボランティアスタッフが、そんなお母さんの運転代行をしたり、お母さんとお子さんがゴーカートに乗っている間、ベビーカーの赤ちゃんを預かったりします。ゴーカートコースへの子ども飛び出しの見守りや落し物の捜索などは、シニア世代の仕事です。

地域の人たちの力も借りて、敷地を維持・管理する

小さな頃の楽しい思い出が、将来Uターンのきっかけになるかもしれない。10月には保育園やキッズダンススクールとの共同イベントを開催。およそ2000人の来場者を集めた

「将来の子育て世代」と「子育てが一段落した世代」が「現役子育て世代」をサポートする、「社会全体での子育て」です。

【夏季の水遊び広場】

公園に「ビニールプールで水遊び広場」をつくりました。気温の上昇が早かったため、5月下旬から8月下旬まで合計24日実施しました。0歳児も利用できる浅いプールから、大きな子どもも楽しめるウォータースライダーやトランポリン付きのプール。カラーボールとビニール玩具、上空のガーランドでカラフルな「非日常の演出」をします。

近くに設置したバブルマシーンから飛び出すシャボン玉が辺りに漂うと、子どもたちは歓喜の声を上げ、それを撮影する家族がとてもうれしそうでした。プール脇には子どもの着替え場所を兼ねた日除けテント、傍にはミスト発生機を用意するなど大人の熱中症対策にも気を配り、多くの家族にご利用いただきました。

【各種団体との共同イベント】

10月には、様々な団体と一緒に子育て家族向けのイベントを開催しました。コロナ禍で長期間発表の機会がなかった保育園のマーチングバンドに、子ども向けダンススクールのヒップホップダンス。お祭り気分を感じられる各種イベントに加え、「アルパカの仮設動物園」なども彩りを添えました。人口の少ない中山間地にもかかわらず来場者2000人のイベントとなり、大盛況に終わりました。

【保育園の受け入れ】

休日公園に連れてきてもらえない子どもも沢山いると考え、保育園の遠足があると引率の保育士さんに手伝っていただきながら、子どもたちをゴーカートやバッテリーカーに乗せてあげました。保育園の遠足は平日のためシニア世代のスタッフだけで大変でしたが、保育士さんが運転するゴーカートに乗って喜ぶ子どもたちの笑顔は、シニア世代ボランティアにとって何物にも代えがたい報酬となりました。

【Webフォトコンテスト】

社会全体での子育てを目的に「Webフォトコンテスト」を開催しました。期間中に園内で撮影した子どもや家族の写真をWebサイトに投稿すると、協賛スポンサーがそれぞれ気に入った写真の投稿者に自社名の賞と副賞の商品券を贈り、子育てに使っていただくという企画です。一番大変なのは協賛スポンサーの確保でしたが、お陰様で地元企業31社から合計20万5000円の協賛金をお預かりし、子育て家族による投稿278作品の中から、58の賞を37名に贈ることができました。

【春に向けて】

豪雪地の公園維持には多くの労力が必要です。初雪が降る11月下旬までに備品を片付け終わり、遊具に樹木、トイレや倉庫の雪囲いは必須。翌春の「菜の花畑」のためにアブラナの種をまき、花壇にはチューリップの球根とビオラの苗を植えました。公園に飾っていたプランター植えの植物は冬の間、市内の屋内遊園施設と金融機関の軒下を拝借し管理しています。

【臨機応変に無料対応】

「兄弟が多くて小遣いを貰えなかった子どものころ、公園の管理人さんが無料でいいよとゴーカートに乗せてくれて、とてもうれしかった」と思い出を話してくれた方がいました。メンテナンス費用程度の

多世代のボランティアスタッフが協力して運営する。左の写真の着ぐるみに入っているのは、高校生のスタッフ

低料金で乗り物の貸し出しをしていますが、回数券を購入し親子で楽しそうに乗っている姿を遠目でうらやむ子どもの姿も時々見かけます。そこで、その様な子どもたちには、「コース点検するから隣に乗って手伝ってくれる?」「バッテリー交換するから車庫まで運転していってくれる?」など、何らかの理由を付けて一緒に乗せるようにしています。利用料を申し受けている家族にも気を配りながら、その時々に応じて理由を考えています。

【高校生ボランティア】

以前ボランティアに来てくれていた青年が、奥さんを連れて結婚の報告に来てくれました。「忙しいかなと思って?」と自主的に手伝いに来てくれたのは2人の専門学生、昨年までの高校生ボランティアでした。社会人やシニア世代のボランティアと一緒に昼食を食べながらの近況報告に、多世代交流の輪が年々広がっていることを実感しました。高校生ボランティアとの公園づくりはメディアにも取り上げられ、一時はネットニュースで全国トップ10入りしました。

➡寂れた公園が人気スポットに再生 トイレ掃除から始まり…目指すは"田舎のディズニーランド"?

【新潟発】https://www.fnn.jp/articles/-/417085

課題と解決方策

少子高齢化が進む中、地域の子育て環境が良くなれば若者の定住者が増えるかもしれないし、子どもたちの「楽しかった、うれしかった」の体験が多くなれば地域への愛着心が育まれ、将来Uターンのきっかけになるかもしれません。その様な考えから子どもたちがいつ来ても「楽しい、うれしい」を体験できる場所づくりを心掛けています。またその活動を通して多様なコミュニティの構築も考えてきました。

活動を通じて見えた課題は、資金調達と人材確保、地域や行政、企業や団体との連携です。多くの方にご支援いただき続けるために一番大切なことは、利用者が多い公園にすることだと考えます。そのための施策が机上の空論とならないよう常に現場で話し合い、試行錯誤しながらも積極的に実践していきます。また本助成のような様々な助成・顕彰の公募に挑戦することで、活動に対して多角的、客観的視点での検証とご指導をいただけるように努めます。

今後の予定

「公園にミツバチの巣はどうだろう?」「間伐した木にキノコを植えてみたら?」、人と里山の自然とのつながりを子どもたちに観察してもらおうと、地元の養蜂家や農家さんと一緒に早速開始。仕掛けた巣にミツバチの確認はできませんでしたが、次に期待します。シイタケの種菌を接種したナラの木には、順調に菌糸が蔓延しています。大人も子どもも一緒になってワクワク・ドキドキできる仕掛けを、これからも続けていきたいと考えています。

特定非営利活動法人桂公園こどもランド

2014年11月設立、15年11月法人化／メンバー数：11人／代表者：渡邊 真人（わたなべ・まひと）

●〒949-8614　新潟県十日町市中条丙441−2（管理人：福原 久八郎）

☎025-757-5901　FAX025-757-2258　fukuharakikaku@gmail.com

katsura-kidspark.com/　facebook.com/mario4412

私たちは社会全体での子育てを目的として、地域の公園をリノベーションしながら様々な人や団体とつながりを広げ、子どもや子育て家族が笑顔になれる居場所づくりを進めています。